

障害者歯科学入門（小松知子）

Introduction to Special Needs Dentistry (Tomoko Komatsu)

キーワード

- | | |
|------------|-----------|
| ① 障害者歯科学 | ⑥ 多職種協働 |
| ② 全身管理歯科学 | ⑦ 行動調整 |
| ③ 神経発達障害 | ⑧ 口腔機能低下症 |
| ④ 身体障害 | |
| ⑤ 摂食嚥下機能障害 | |

授業概要

知的障害、自閉症スペクトラム障害などの神経発達障害、脳性麻痺、脳血管障害などの身体障害、てんかん、認知症などの精神障害、先天異常など、様々な障害がある人の口腔の健康を維持していくためには、その特性を理解し特別な配慮が必要となる。本講義を通して各種障害の特性、地域医療連携などに関する必要な基本的知識を身につける。特に、(1)障害者と社会保障および障害者歯科学の歴史と現状を認識する。(2)地域医療連携、多職種協働の重要性について理解を深める。(3)種々の障害の定義、疫学、病因と病態、分類、症状、医療・療育、口腔の特徴、各種障害に対する行動調整、歯科治療について修得し、臨床研究を検討する能力の基本を養成することを目的として開講する。

授業科目の学修目標

障害者歯科学は、様々な障害を有する人の口腔の健康を維持していくために、障害特性や医療への特別な配慮の必要性を理解し、修得する学問分野である。これは、社会的な支援や法律をも包含する学問であり、歯科医師としては欠かすことのできない分野である。それらの観点に基づき、本科目では大学院レベルにおいて必要な知識を修得することを目標とする。

授業計画

- ① 障害者歯科学の意義と障害者歯科医療の基礎知識
 - ・障害者歯科学の歴史と現状 1コマ 小松知子
 - ・障害者歯科医療の基本 3コマ 小松知子
 - ・障害児・者の理解と臨床 7コマ 小松知子
(神経発達障害児・者、身体、精神障害児者、先天異常・症候群を有する児・者)
 - ・摂食嚥下機能障害の臨床 4コマ 小松知子
 - ・地域における医療連携と多職種協働のための関連職種の基礎知識 1コマ 小松知子
- ② 障害者歯科学の臨床および研究の倫理規範
 - ・障害者に対する理解と態度 1コマ 小松知子
 - ・患者・家族とのコミュニケーションとインフォームドコンセント 1コマ 小松知子
- ③ 障害者歯科学研究の展開
 - ・神経発達障害分野の研究の展開 2コマ 小松知子
 - ・身体および精神障害分野の研究の展開 2コマ 小松知子
 - ・先天異常・症候群分野の研究の展開 2コマ 小松知子
 - ・行動調整法の研究の展開 2コマ 小松知子
 - ・口腔機能低下症と摂食嚥下機能障害研究の展開 4コマ 小松知子

教科書および参考書

- ① 日本障害者歯科学会編：スペシャルニーズデンティストリー 医歯薬出版
- ② 向井 美恵、山田 好秋編：歯学生のための摂食・嚥下リハビリテーション学 医歯薬出版

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

授業計画の各項目では、基礎的知識の修得に加え、本分野の教員が専門とする領域の関連論文を塾読し、概要の理解が求められる。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① 障害者歯科学の意義を理解し障害者歯科学の基本を説明できる。
- ② 障害者歯科学の臨床および研究における倫理規範を理解し応用できる。
- ③ 障害者歯科学研究論を理解し実践できる。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポート フォリオ	口頭試問	その他
20%	0%	15%	15%	20%	30%	0%

評価の要点

- ・試験は、授業計画で行った講義の知識の理解度を判定する。1回20%
- ・レポートは、①～③の中から各1項目について課題を提出する。5%×3回=15%
- ・成果発表は、①～③の中から各1項目について成果を発表する。5%×3回=15%
- ・ポートフォリオは上記を含めた研究活動記録を年度末にまとめて提出する。1回20%
- ・口頭試問は、授業終了後毎回行い、知識の理解度を判定する。1%×30回=30%

理想的な達成レベルの目安

障害者歯科学入門の理想的な達成レベルは70%以上とする。特に、倫理的な理解に関しては100%を求める。